

～安心で、持続可能な社会の実現を目指して～

東京メトログループのサステナビリティ重要課題 (マテリアリティ) を特定しました

当社初となる「サステナビリティレポート」も発行

東京地下鉄株式会社（本社：東京都台東区、代表取締役社長：山村 明義、以下「東京メトロ」）は、グループ理念「東京を走らせる力」のもと、「安心で、持続可能な社会」の実現を図るべく、東京メトログループにおけるサステナビリティ重要課題（以下「マテリアリティ」）を特定しました。また、東京メトログループのサステナビリティに対する取組みを広くお伝えすることを目的とした「サステナビリティレポート2020」を、2020年9月30日（水）に新たに発行します。

本格的な人口減少社会の到来、デジタル化の進展、さらには2020年初頭からの新型コロナウイルス感染症の拡大等により、社会構造や人々のライフスタイル、働き方や価値観が大きく変化していく中、持続可能な社会の実現には、より長期的かつ多様な視点でグローバルな社会課題を解決していくことが必要不可欠です。東京メトログループでは、「安心で、持続可能な社会」の実現に向けて、特に取り組むべき9つのマテリアリティを特定するとともに、そのマテリアリティに対応する東京メトログループの意志を込めた5つのテーマを定めました。

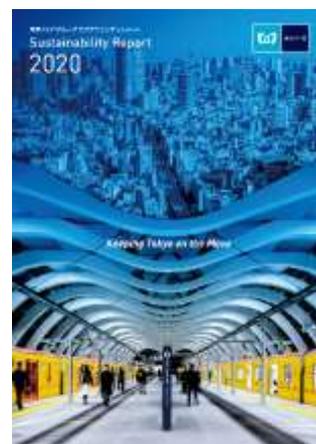
今後、特定したマテリアリティに基づき、より長期的な対応方針や具体的な目標を設定し、サステナビリティ経営を推進してまいります。

東京メトログループは、これからも全ての人々に安心して地下鉄をご利用いただけるよう、時代に即した事業の拡充を図るとともに、気候変動問題などの社会課題の解決に積極的に取り組み、「安心で、持続可能な社会」の実現を目指してまいります。

詳細は別紙のとおりです。



サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）概念



サステナビリティレポート表紙

サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）及び「サステナビリティレポート2020」詳細

1. 東京メトログループのサステナビリティ重要課題（マテリアリティ）について

（1）マテリアリティ特定の背景

東京メトログループは、創業者である早川徳次の「地下鉄こそが、東京の交通事情を改善し、都市の発展に必要不可欠のものだ」という信念のもとで1927年に開通させた浅草～上野間の路線がルーツです。そのDNAを引き継ぎ、2004年の発足以来、グループ理念である「東京を走らせる力」を念頭に、東京に集う人々の生き活きとした毎日に貢献するべく、鉄道を中心とした事業を行ってきました。

本格的な人口減少・高齢化社会の到来、デジタル化の進展、さらには2020年初頭からの新型コロナウイルス感染症の拡大等により、社会構造や人々のライフスタイル、働き方や価値観が大きく変化しています。そのような中で、SDGs※に掲げられる持続可能な社会の実現は、より長期的かつ多様な視点でグローバルな社会課題を解決していくことが必要不可欠であり、事業活動を牽引する企業こそ率先して実践すべきだと強く認識しています。

※SDGs：2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成される。



（2）特定したマテリアリティとテーマ

新たに「安心で、持続可能な社会へ」という理念を掲げ、サステナビリティ経営を実践していきます。より具体的な行動を推進していくため、特に取り組むべき9つのマテリアリティを特定するとともに、「鉄道」、「ひと」、「まち」、「地球」、「経営基盤」を起点に、東京メトログループの意志を含めた5つのマテリアリティテーマを定めました。

なお、東京メトログループのサステナビリティに対する考え方及びマテリアリティ、取り組みの詳細は、当社ホームページをご覧ください。

【URL】 <https://www.tokyometro.jp/corporate/csr/index.html>

<東京メトログループのマテリアリティ>

マテリアリティ	解説	マテリアリティテーマと関連する SDGs
① 安全・安定輸送の実現	<p>たゆみなき「安全」の追求のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安全を最優先とし、過去の事故を決して繰り返さないという全役職員の固い決意 ● 継続的な改善、設備改良、新技術の導入等による事故の未然防止 	<p>テーマ1 地下鉄を安全に、そしてつよく</p> 
② 強靱で安心な交通インフラの構築	<ul style="list-style-type: none"> ● 首都直下地震や激甚化する気象災害に備えたスピード感を持った対策の推進 ● 感染症拡大・テロ・サイバー攻撃等の脅威に備えた危機管理機能の強化 	<p>テーマ2 一人ひとりの毎日を生き活きと</p> 
③ 移動の安心、利便性・快適性向上	<ul style="list-style-type: none"> ● すべての人に、より安心・快適な移動を提供 ● 「my! 東京 MaaS」の推進を軸とするモビリティ変革に挑戦 	<p>テーマ3 東京に多様な魅力と価値を</p> 
④ 多様なライフ・ワークスタイルへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会やライフ・ワークスタイルの変化によって多様化するニーズに対応した事業展開 ● 「my! 東京 MaaS」の推進とも連動した、一人ひとりが「自分らしく」あるためのサービス提供 	<p>テーマ4 地球にやさしいメトロに</p> 
⑤ 都市・地域の魅力度向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域に根差した魅力の発掘・発信を通じて、「ひと」と「まち」をつなぎ、沿線地域の豊かさを創出 ● 多様なパートナーとの連携を通じた、駅・まち一体の調和のとれた空間整備、交通ネットワークの磨き込みにより、東京の魅力と価値を共創 	<p>テーマ5 新たな時代を共に創る力を</p> 
⑥ 気候変動の緩和	<ul style="list-style-type: none"> ● 先端技術や再生可能エネルギーの活用による環境負荷の低減 ● 公共交通の利用促進及び環境性能に優れた鉄道技術の国内外への展開 	
⑦ 海外への展開・支援	<ul style="list-style-type: none"> ● これまで培ってきた技術やノウハウの海外展開による現地交通サービスの発展支援 	
⑧ 技術開発・DX・パートナーシップの強化	<ul style="list-style-type: none"> ● あくなき技術力の研鑽、デジタルトランスフォーメーション、パートナーシップの強化による業務の変革と新たな企業価値の創出 	
⑨ ガバナンス強化/人財育成/ダイバーシティ推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 公正な組織統治の着実な実施 ● 働き方改革、労働安全衛生の確保、人財の育成、ダイバーシティ・健康経営の推進 	

●関連する SDGs については、より関連度の高い目標を大きく表示しています。

2. 「サステナビリティレポート 2020」の発行について

(1) 内容

東京メトログループのサステナビリティに対する取組みを広くお伝えすることを目的に、昨年度まで発行してきた「社会環境報告書」を大きくリニューアルし、マテリアリティの特定プロセスも含め、マテリアリティに関するページを新たに追加したほか、各種取組みをマテリアリティテーマごとに掲載しています。また、ESGの視点も踏まえ、サステナビリティ経営の推進に向けて、より重要となる「非財務数値」の開示充実化も図っています。

(ア) トップメッセージ

(イ) 東京メトログループのサステナビリティ重要課題とテーマ

(ウ) 特集

- ・サステナビリティ推進に向けた取組
- ・新型コロナウイルス感染症の感染予防に向けた取組
- ・虎ノ門ヒルズ駅開業
- ・大都市型 MaaS「my! 東京 MaaS」始動

(エ) 2019 年度の東京メトログループの主な取組/財務・非財務データ

(オ) マテリアリティテーマに基づく各種取組

- ・テーマ1「地下鉄を安全に、そしてつよく」
- ・テーマ2「一人ひとりの毎日を生き活きと」
- ・テーマ3「東京に多様な魅力と価値を」
- ・テーマ4「地球にやさしいメトロに」
- ・テーマ5「新たな時代を共に創る力を」

(2) 発行日

2020年9月30日（水）

(3) 媒体

- ・電子データ 当社ホームページ <https://www.tokyometro.jp/corporate/csr/report/>
- ・冊子 当社ホームページからお申込みいただけます。（10月下旬受付開始予定）

（冊子の申込受付・発送は有限会社インフォワードが運営するCSRレポート/社会・環境報告書無料請求サイト「エコほっとライン」を使用しています）

〈サステナビリティレポート 2020 紙面イメージ① マテリアリティテーマに基づく各種取組〉



〈サステナビリティレポート 2020 紙面イメージ② サステナビリティ戦略〉

サステナビリティ戦略

東京メトログループのサステナビリティ重要課題とテーマ

東京メトログループは、グループ経営を支える柱となる交通、安心で持続可能な社会を実現するため、3つのサステナビリティ重要課題(マテリアリティ)を特定するとともに、課題解決に向けた重点的な取り組みのテーマを設定しました。

～安心で、持続可能な社会へ～

東京を走らせる力

Keeping Tokyo on the Move

Theme 1
地下鉄を安全に、そしてつよく

●安全・安心の確保の徹底
大規模な地下鉄の駅舎の改修、駅舎の老朽化対策、最新の最新鋭車両の導入、最新の信号機・踏切の改良、さらには駅舎の耐震性の向上など、安全・安心の確保に注力しています。

●駅舎の耐震性の向上
駅舎の耐震性の向上に注力しています。

●駅舎の老朽化対策
駅舎の老朽化対策に注力しています。

●最新の最新鋭車両の導入
最新の最新鋭車両の導入に注力しています。

●最新の信号機・踏切の改良
最新の信号機・踏切の改良に注力しています。

Theme 2
一人ひとりの毎日を、活き活きと

●多様な価値観の尊重・価値観の創造
多様な価値観の尊重・価値観の創造に注力しています。

●多様な価値観の尊重・価値観の創造
多様な価値観の尊重・価値観の創造に注力しています。

●多様な価値観の尊重・価値観の創造
多様な価値観の尊重・価値観の創造に注力しています。

●多様な価値観の尊重・価値観の創造
多様な価値観の尊重・価値観の創造に注力しています。

Theme 3
東京に多様な魅力と個性を

●多様な価値観の尊重・価値観の創造
多様な価値観の尊重・価値観の創造に注力しています。

●多様な価値観の尊重・価値観の創造
多様な価値観の尊重・価値観の創造に注力しています。

●多様な価値観の尊重・価値観の創造
多様な価値観の尊重・価値観の創造に注力しています。

●多様な価値観の尊重・価値観の創造
多様な価値観の尊重・価値観の創造に注力しています。

Theme 4
新たな時代を共に進む力を

●多様な価値観の尊重・価値観の創造
多様な価値観の尊重・価値観の創造に注力しています。

●多様な価値観の尊重・価値観の創造
多様な価値観の尊重・価値観の創造に注力しています。

●多様な価値観の尊重・価値観の創造
多様な価値観の尊重・価値観の創造に注力しています。

●多様な価値観の尊重・価値観の創造
多様な価値観の尊重・価値観の創造に注力しています。

マテリアリティの特定プロセス

マテリアリティは、各関係者の期待や関心に基づき、経営活動に与える影響が大きいもの、また、当社が社会に与える影響が大きいものとして特定されました。

- 社会課題の抽出・整理**
社会課題を抽出し、整理しました。
- 社会課題の評価**
社会課題を評価し、マテリアリティを特定しました。
- 環境的課題/マテリアリティの特定**
マテリアリティを特定し、環境的課題を特定しました。

マテリアリティマップから重要課題を抽出

重要課題の抽出結果は、マップ上のプロットを基に行いました。そこから抽出した重要課題は、各関係者の期待や関心に基づき、経営活動に与える影響が大きいもの、また、当社が社会に与える影響が大きいものとして特定されました。

〈サステナビリティレポート 2020 紙面イメージ③ 主な財務・非財務データ〉

2019年度 主な財務・非財務データ

財務データ

営業収益 4,331億円 | 営業利益 839億円 | 経常利益 749億円

営業収益に相当する経常利益 513億円 | 設備投資額** 1,651億円 | 前期繰上利益** 7,560億円

営業キャッシュフロー** 1,360億円 | 連結ROA** 4.9% | 連結純利益/総資産比率** 4.1%

非財務データ

年間従業員数 (平均従業員数) 2,765,000人 (12,200人)

純資産増減率(連結) 22% | 総資産/営業収益 136%・76%

女性従業員比率(連結) 90.6%・7.7% | 総務効率率** 91.6% | CO2排出量 514,597CO2

営業投資口当たり** 1.84億円/人 | 売上総利益率 12.0% | 総務効率率(営業) 98.8%

社会データ (Social Data)

項目	2019	2018	2017	2016	2015	2014
労働者	1,799	1,799	1,799	1,799	1,799	1,799
パート・アルバイト	865	865	865	865	865	865
パート・アルバイト比率	48.1%	48.1%	48.1%	48.1%	48.1%	48.1%
パート・アルバイト比率(パート・アルバイト比率)	48.1%	48.1%	48.1%	48.1%	48.1%	48.1%
パート・アルバイト比率(パート・アルバイト比率)	48.1%	48.1%	48.1%	48.1%	48.1%	48.1%

環境データ (Environmental Data)

項目	2019	2018	2017	2016	2015	2014
CO2排出量	514,597	514,597	514,597	514,597	514,597	514,597
CO2排出量(削減率)	91.6%	91.6%	91.6%	91.6%	91.6%	91.6%
CO2排出量(削減率)	91.6%	91.6%	91.6%	91.6%	91.6%	91.6%
CO2排出量(削減率)	91.6%	91.6%	91.6%	91.6%	91.6%	91.6%